

“輝け！ひぐみっ子” だより

～東汲沢小学校教育目標「学びあい 高めあい まちとともにあゆむ ひぐみっ子」～

☎861-5531

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/higashigumisawa/>

豊かな想像力

校長 丹羽正昇

今年の立春は2月3日。その関係で前日の2月2日が節分だそうです。冬と春の節目である二月の節分は、他の時期の節分に比べ、なんだか心が一層明るくなる気がします。社会情勢にも、明るい兆しが見えるといいなど、願ってやみません。

さて、私たちひぐみにも明るい話題があります。学校運営協議会の石橋会長のご尽力と、地域の方のご厚意から、新しくうさぎをもらい受けることができました。飼育していたうさぎのバニラが天寿を全うし、かめのミチコは冬眠に入り、ひぐみの飼育小屋はしんとしてしまいました。そんな中でも、環境委員会の子どもたちは、飼育小屋の環境整備を怠らず、いつ新しい仲間を迎えてもいいようにと準備していました。そんな子どもたちの切なる思いが通じ、この度新しい仲間を迎えることができました。名前は、「ラテ」といいます。薄茶色の毛色が、飲み物のカフェラテに似ているところから、たくさんの愛情をもって名付けられました。現在は、環境委員会の子どもたちがつくった仮設小屋を職員室の前に置き、そこで生活しています。もう少し暖かくなったら、飼育小屋に移る予定です。

私は、「迎える」という言葉が好きです。「迎える」と聞くと、春が連想され、温かい気持ちすら感じます。はっきりとした理由はないのですが、春と「迎える」という言葉が、なんだかぴったりに思えるのです。「迎える」という言葉の語源は「向かえる」と同じですが、使い方が少し異なり「向かえる」は対峙することを表し、「迎える」は受容することを主に表します。いまの社会、対峙することばかりが目立ち、人と人とはどれだけ受容できているのだろうか。一方で、受容することの大切さを頭では理解できても、時としてそれは簡単なことではなく、受け入れ難いことだっています。そんなことを考えながら、ふと、思うことがあります。そもそも自分には、日頃から人や物事を受容する準備ができているのかということです。

ここで、環境委員会の子どもの姿を思い返してみてください。いつ、うさぎをもらい受けることができるのか、子どもたちは全く知りませんでした。そのことは、正直言って職員の私たちにも分かりませんでした。それなのに、いつ実現するか分からないことに対して、彼らが取った行動は、日課としての飼育小屋の環境整備でした。いつ新しい仲間が来てでもいいように、準備していたのです。それは、彼らの心の優しさであり、愛情であるとともに、豊かに想像していることの証拠なのです。新しいうさぎを迎えたら、どんな気持ちになるのかな。一緒に遊んだら、きっと楽しいだろうな。世話をしたら喜んでくれるだろうな。学校のみんなも新しい仲間を見て元気になるかもしれない。だから、いままで飼っていたうさぎのように、いやそれ以上に大切にしたい。

豊かに想像することが、人の心を豊かにし、人を動かす原動力になり、人や物事を受け入れる大切さを、頭だけでの理解ではなく、真に実感させることにつながっていく。環境委員会の子どもたちの姿を見ていて、心からそう思いました。ひょっとしたらいまの世の中、暗い話題が多すぎて、豊かに想像することがたりないのかもしれない。もっと想像力を働かせて毎日をごしたい。

子どもたちからの学びです。

